

『時事直言』 No.1486 2021年9月2日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](#)

[instagram] [t_masuda2019/](#)

[mail] info@chokugen.com

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](#)

[Youtube] [増田俊男チャンネル/](#)



時事評論家 増田俊男

バイデン大統領の使命

期限の8月31日までに米軍完全撤退を終えたバイデン大統領は「今後アメリカの国益にならないような米軍の行動はない」と宣言した。

では9/11(セプテンバー・イレブン)から今月11日までの20年間の米軍の中東軍事関与は誰の為だったのか。

私は先週ラヂオもりおかで「アメリカはユダヤ(イスラエル)に従い、日本はアメリカに従う」と述べた。

1998年8月8日ケニアとタンザニアの米国大使館の同時爆破の9人のアルカイダ容疑者の無罪がニューヨーク地裁で決まることになっていた2001年9月12日の前日(11日)に偶然か、必然か容疑者弁護団が翌日の裁判の打ち合わせをしていたWTC(世界貿易センター)が爆破され、弁護団、証拠、証人がこの世から消えた。

翌月10月首謀者ビン・ラーディンをアフガニスタンのタリバン政権が隠しているという理由による対タリバン報復攻撃でタリバン政権崩壊、そして20年経った今日アメリカは事実上アフガンを元のタリバンに明け渡した。

誰もが「アメリカの中東政策は失敗であった」と言う。

それはアメリカが人命と膨大な資金を費やして得たものは不名誉以外に何一つなかったからだ。

しかしアメリカはユダヤとイスラエルに従う使命があるのだから、20年間一貫してイスラエルの為に尽くしたことは当然ではないのか。

今回のバイデン大統領の宣言(米軍は自国の為のみ行動する)は、「もうイスラエルには従わない」と言うことである。

バイデンが本気ならアメリカは今までのアメリカではなくなる。

アメリカの上下両院の全議員は「私はイスラエル(ユダヤ)の為に最大の努力をする」という誓約書に署名している。

これからアメリカは安全保障、経済、特に金融、外交等あらゆる分野でのリセットが行われる。

アメリカが変われば世界も日本も変わる。

今日から2024年末までに起きるアメリカの大変動で世界と日本がどう変わるか、9月10日から始まる「増田俊男のインターネット国際政経塾」(増田塾)で、塾員全員が完全に納得するまで何講座でも続ける所存である。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。